

# 神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

## <報告> 2025(令和 7)年病原体検出状況(神戸市実施分)

健康科学研究所で行った定点医療機関からの検体を中心とした病原体検出状況について報告する。

### 細菌検出状況

#### 1. 食中毒細菌

2025 年は市内の食中毒疑い事例関連の 174 検体の検便検査を実施し、79 株の下痢症原因菌が検出された。そのうちウエルシュ菌が 38 株と最も多く検出された(48%)。2024 年は市内で 10 例の食中毒事例が発生し、昨年の 14 事例から減少した。そのうち 3 事例が細菌性の食中毒事例であり、病因物質は全てカンピロバクターであった。これらの事例に付随する検査でカンピロバクター・ジェジュニを患者便から 15 株検出した。また、食中毒事例に関連した施設ふき取り検査を 214 件実施し、セレウス菌を 8 株検出した。

このほかの散発事例として腸管出血性大腸菌の接触者および治癒確認検便を計 32 件実施し、それぞれ対象となった腸管出血性大腸菌を 5 株(Og76、O91、O103、O145)検出した。

#### 2. 下痢症原因菌

2025 年は定点サーベイランスで搬入された感染性胃腸炎の検体について 18 件の細菌検査を実施し、黄色ブドウ球菌を 7 株、ウエルシュ菌を 2 株、腸管病原性大腸菌を 1 株検出した。その他、医療機関で単離されたコレラ菌疑い菌株の同定検査を 2 件実施し、いずれも陰性(NAG ビブリオ)と判定した。

#### 3. A 群溶血性レンサ球菌感染症

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎疑いの患者から採取した 32 検体のうち、27 検体から A 群溶血性レンサ球菌が検出された。T 型別の結果、型別不能(13 検体)、T4 型(10 検体)、T1 型(2 検体)、T13 型(1 検体)、TB3264 型(1 検体)、であった。T1 型 2 株の内、1 株は M1<sub>UK</sub> 系統株、1 株は M1<sub>UK</sub> sublineage である M1<sub>13snps</sub> 系統株であった。また、T 型別不能であった 2 株は、マクロライド系抗菌薬に耐性を示した。

#### 4. STD(性感染症)(表 1)

男性の尿道分泌物 10 検体が搬入され、2 検体から淋菌を分離した。2 株ともレボフロキサシン、シプロフロキサシンに耐性であり、1株はセフィキシム低感受性であった。

#### 5. その他の細菌(表 2)

##### a) レジオネラ症

遺伝子検査及び培養を実施した喀痰 19 検体のうち、5 検体から *Legionella pneumophila* 血清群 1 が検出された(内 1 件は培養陰性)。*Legionella pneumophila* の SBT(Sequence-based typing)による遺伝子型別解析の結果、ST507、ST882、ST1023、ST1588 と同定した。ST507 は土壌・水たまり分離株が多く含まれるグループ、ST882 は浴槽水分離株が多く含まれるグループに存在した。

##### b) 侵襲性肺炎球菌感染症

小児由来株は、ワクチン接種済みの小児から 6 株、ワクチン接種歴不明の小児から 2 株が搬入さ

れた。8 株の血清型は、PCR 法と膨化法により、15A、15B、15C、23A、23B、24F、38 と同定した。検出された血清型はいずれも、結合型 13 価ワクチン(PCV13)には含まれない血清型であった。

莢膜多糖体 23 価ワクチン(PPSV23)接種済みの成人 3 名から分離された株の血清型は 3、22F、34 と同定した。

ワクチン接種歴なし/ワクチン接種歴不明の成人由来株 50 株の血清型は、22F(10 株)、3(8 株)、19A(5 株)、33F(5 株)、11A/E(4 株)、23A(4 株)、35B(3 株)、10A(2 株)、15A(2 株)、31(2 株)、6C(2 株)、24F(1 株)、37(1 株)、24/(24A/24B/24F)(1 株)と同定した。

#### c) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ菌感染症 13 件について、PCR 法による莢膜型別を実施した。その結果、1 件は莢膜型 b 型、12 件は無莢膜型と同定した。

#### d) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)感染症

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)感染症として届出された腸内細菌目細菌 13 株について検査を実施した。検出部位は、血液(6 株)、胆汁(3 株)、喀痰(2 株)、尿(1 株)、腹水(1 株)であった。菌種は *Klebsiella pneumoniae* (8 株)、*Klebsiella aerogenes* (2 株)、*Enterobacter cloacae* complex (1 株)、*Citrobacter freundii* (1 株)、*Serratia marcescens* (1 株)であった。

ディスク法によるβ-ラクタマーゼ産生のスクリーニングおよび薬剤耐性遺伝子の保有状況を調べた。その結果、クラス C β-ラクタマーゼ産生が示唆された菌種は *Klebsiella aerogenes* (2 株)、*Enterobacter cloacae* complex(1 株)、*Citrobacter freundii* (1 株)、*Serratia marcescens* (1 株)であった。

クラス A β-ラクタマーゼのみが検出された菌株としては、*Klebsiella pneumoniae* から CTX-M-1 型・TEM 型・SHV 型 β-ラクタマーゼ(5 株)、SHV 型 β-ラクタマーゼ(2 株)、*Enterobacter cloacae* complex から CTX-M-1 型・TEM 型 β-ラクタマーゼ(1 株)が検出された。

カルバペネマーゼについては、*Klebsiella pneumoniae* (1 株)から IMP-6 β-ラクタマーゼが検

出され、CTX-M-2 型・SHV 型 β-ラクタマーゼも検出された。

#### e) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌 17 株を収集した。内訳は A 群溶血性レンサ球菌 7 株、B 群溶血性レンサ球菌 4 株、G 群溶血性レンサ球菌 6 株であった。国立感染症研究所による菌株解析の結果、7 株の A 群溶血性レンサ球菌の T 型別については、T1 型(2 株)、T4 型(1 株)、T25 型(1 株)、T 型別不能(3 株)であった。T1 型の 1 株は M1<sub>UK</sub> 系統株、1 株は M1<sub>13snps</sub> 系統株であった。4 株の B 群溶血性レンサ球菌の血清型は、Ib 型(3 株)、VI 型(1 株)であった。6 株の G 群溶血性レンサ球菌の血清型は stG840.0(3 株)、stG6792.3(1 株)、stC74a.0(1 株)、stG245.0(1 株)であった。stG840.0 型株と stC74a.0 型株はエリスロマイシン、アジスロマイシン、クラリスロマイシンに耐性を示し、stG840.0 型株と stG245.0 型株はクリンダマイシンにも耐性を示した。

#### f) 百日咳

百日咳患者または疑い患者の鼻腔ぬぐい検体および急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスの一環として採取された検体の合計 233 検体が搬入された。このうち、215 検体(92.3%)から百日咳菌遺伝子が検出された。また、培養検査を実施した 225 検体中 119 検体(52.9%)から百日咳菌を、1 検体から百日咳菌類縁菌である *Bordetella holmesii* が分離された。

百日咳菌のマクロライド耐性に寄与する、23S rRNA 遺伝子の A2047G 点変異は、233 検体のうち 105 検体(48.8%)から検出された。また、48 検体(22.3%)からは A2047G 変異は検出されず、残り 62 件(28.8%)は不明であった。

#### g) *Mycoplasma pneumoniae*

マイコプラズマ肺炎疑い患者から採取した鼻腔ぬぐい液 7 検体のうち、3 検体から *Mycoplasma pneumoniae* が検出された。

#### h) ダニ媒介性感染症

2025 年はダニ媒介性感染症の検査依頼が過去5年間と比較して倍増した。日本紅斑熱につい

では 33 症例の検査を行い、17 例が陽性であった（前年は 20 症例中 10 例陽性）。また、SFTS について 20 症例の検査を実施し、2 例が陽性であった（前年は 5 症例全て陰性）。ツツガムシ病について 10 症例の検査依頼があったが全て陰性であった。

#### i) 希少感染症

2025 年は海外渡航歴のある患者に対して 2 事例の輸入リケッチア症疑い事例があり、国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所（以下、感染研）に行政検査を依頼した。その結果いずれも陰性と判定された。また、レプトスピラ症および Q 熱疑い症例がそれぞれ 1 事例ずつあり、それぞれ感染研に行政検査を依頼したところ、レプトスピラ症は陽性で Q 熱は陰性と判定された。

### ウイルス検出状況（表 3、4）

2025 年の第 15 週（4 月 7 日）から、急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始された。それにより、2025 年の搬入検体数は 1277 件（うち陽性数 1207 件（156 件の重複感染含む））と前年の倍以上に増加した。当所では、2024 年 3 月から呼吸器系ウイルスマルチプレックス PCR 法による検査を開始しており、ARI 検体を含む呼吸器検体の検査では、以下の 20 種類のウイルスの検査を実施している。陽性となった検体について、必要がある場合はウイルスの型を決定し、その結果を報告している。

- ・A 型インフルエンザウイルス
- ・B 型インフルエンザウイルス
- ・新型コロナウイルス
- ・RS ウイルス（サブグループ A）
- ・RS ウイルス（サブグループ B）
- ・ヒトメタニューモウイルス
- ・パラインフルエンザウイルス 1 型
- ・パラインフルエンザウイルス 2 型
- ・パラインフルエンザウイルス 3 型
- ・パラインフルエンザウイルス 4 型
- ・エンテロウイルス
- ・ライノウイルス
- ・アデノウイルス
- ・パレコウイルス

- ・C 型インフルエンザウイルス
- ・ヒトコロナウイルス 229E
- ・ヒトコロナウイルス NL63
- ・ヒトコロナウイルス OC43
- ・ヒトコロナウイルス HKU1
- ・ヒトボカウイルス

#### 1) 新型コロナウイルス

2025 年に市内の医療機関およびウイルスサーベイランスで新型コロナウイルス陽性となった検体を収集し、ゲノムサーベイランスを実施した。変異株検出用 PCR を 391 検体に対して実施し、ウイルス量が十分な検体を選んで NGS 解析を実施し、282 検体の Pango 系統を決定した。得られた結果は随時保健所へ提供し、ホームページ等で公表し、市内で流行している株の状況を継続的に示している。なお、医療機関からの積極的な陽性検体の回収は 2025 年 3 月末に終了し、4 月以降は ARI 病原体定点からの検体のみでサーベイランスを実施している。

解析の結果、2025 年 1 月には XEC 系統および KP.3 系統による流行が認められ、3 月頃に収束した。その後、5 月頃から NB.1.8.1 系統が出現し、9 月に流行のピークを迎えたのち、11 月に収束した。以上より、2025 年には 1 月と 9 月をそれぞれピークとする、異なる Pango 系統による 2 回の流行が確認された。

#### 2) エンテロ/ライノウイルス、パレコウイルス

2025 年は、手足口病の検体から、コクサッキーウイルス A4 型（CA4）が 1 検体、エコーウイルス 18 型（E18）が 4 検体、パレコウイルス 5 型（HPeV5）が 1 検体検出された。また、ヘルパンギーナの検体から、CA4（13 検体）、エコーウイルス 7 型（E7、1 検体）が検出された。無菌性髄膜炎は 17 事例 42 検体からウイルスが検出され、そのうち 6 事例 19 検体から E18、6 事例 19 検体から HPeV5 が検出された。

一方、ARI 検体からは、CA4 が 22 検体、エンテロウイルス A71 型が 1 検体、E3 が 3 検体、E7 が 8 検体、E9 が 4 検体、E18 が 12 検体、HPeV1 が 6 検体、HPeV3 が 1 検体、HPeV5 が 9 検体検出された。過去の検出状況では、手足口病の CA6 や CA16、ヘルパンギーナの CA4、無菌性髄膜炎の

エコーウイルス等、それぞれの疾患で検出されやすい型に一定の傾向が見られたが、ARI 検体では、これら 3 疾患で検出された型を反映する結果となった。

### 3) アデノウイルス

アデノウイルスでは 3 領域の遺伝子型別を実施している。これらの組み合わせで型を決定するが、未登録の組み合わせの場合は最も抗原性に関わるとされるヘキソン型を報告している。2025 年は咽頭結膜熱および ARI 検体からアデノウイルス(AdV)1 型(8 検体)、AdV2 型(3 検体)、AdV4 型(1 検体)、AdV5 型(2 検体)、AdV6 型(1 検体)、AdV14 型(1 検体)、AdV89 型(2 検体)、AdV108 型(16 検体)、AdV(型不明)(1 検体)を検出した。また、感染性胃腸炎の検体から、AdV41 型(3 検体)、AdV108 型(1 検体)を検出した。昨年初めて報告した AdV14 型は、2025 年は現在のところ国内でこの 1 検体のみが報告されている。

### 4) ノロウイルス

2025 年には下痢症サーベイランス 10 件を検査し、ノロウイルス GII.17[P17]が 5 事例、GII.4 Sydney[P16]が 3 事例、GII.4[P16]が 1 事例、GII.7[P7]が 1 事例検出された。また、市内で発生した食中毒疑い事例に関連して 260 件の検便検査を実施し、17 事例からノロウイルス GII を、1 事例からノロウイルス GI および GII を検出した。このうち食中毒事件として行政処分された事例は 6 例あり、それぞれの遺伝子型は、GII.17[P17]が 3 例、GII.4[P16]が 1 例、GII.2[P16]と GII.17[P17]の混合感染が 1 例、GI.1[P1]と GII.17[P17]の混合感染が 1 例であった。

### 5) 麻しん・風しんウイルス

麻しんおよび風しんの検査を、10 事例について実施した(いずれかの疑い事例の検査には両者を検出可能な Multiplex RT-PCR 法を実施)。3 事例で麻しん陽性(全て遺伝子型 B3)、風しんは全て陰性であった。なお、日本は 2025 年 9 月に風しんの排除が認定された。一方、麻しんは世界的に報告数が増加し、排除認定の取り消しとなった国も出ており、引き続き十分な警戒が必要である。

### 6) インフルエンザウイルス

2024/25 シーズン当初に A/H1pdm 亜型が流行し、2024 年第 52 週の定点当たり患者報告数が 60 を超え、国のサーベイランス開始以降最大となった。2025/26 シーズンは、ワクチン株と抗原性がやや異なる A/H3 亜型(サブクレード K)がシーズン早期に出現し、患者報告数が増加した。

2025 年の病原体サーベイランスでは、A/H1pdm 亜型を 21 検体、A/H3 亜型を 165 検体、B/ビクトリア系統を 44 検体から分離・検出した。2025 年 9~12 月(第 36~49 週)に搬入され A/H3 亜型であった 96 検体のうち、24 検体について全ゲノム解析を実施し、全てサブクレード K であることを確認した。また、ウイルス分離可能であった A/H1pdm09 亜型については、オセルタミビル感受性の検査を実施し、全て感受性であることを確認した。なお、2025/26 シーズンから、A/H1pdm09 亜型のノイラミニダーゼ阻害薬耐性株サーベイランスにおいて、従来のノイラミニターゼ H275Y の変異に加え、S247N 変異の確認も実施することとなっている。

### 7) その他のウイルス

2025 年 9 月に、アフリカに渡航歴のある患者から、国内初となるエムポックスウイルス(クレード 1b)を検出した。

呼吸器系ウイルスマルチプレックス PCR 法で陰性となった検体について、2025 年に全国的に大流行した伝染性紅斑の原因であるパルボウイルス B19 の検出を試みた。その結果、180 検体中 28 検体で陽性となった。伝染性紅斑では紅斑出現時にウイルスの排泄がほとんどないとされていたため神戸市では積極的な病原体サーベイランスの対象としていなかったが、2026 年度以降は他の小児科疾患と同様に流行時期の検体採取をお願いすることとした。

神戸市健康科学研究所 第 2 衛生研究部

表1 2025年 STD(定点)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
淋菌	耐性菌 (PCG)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	低感受性菌 (CFIX)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	陽性数	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	検査検体数	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1
クラミジア・トラコマチス	陽性数	1	0	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	6
	検査検体数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

表2 2025年 食中毒以外の細菌検査

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ダニ 媒介性	紅斑熱群リケッチア					2	1	1	5	5	3			17
その他臨床	レジオネラ属菌						2	1			1	1		5
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1		2	2		1	3				2	2	13
	侵襲性肺炎球菌	13	7	6	10	4	7	1	1	1	1	5	5	61
	侵襲性インフルエンザ菌	2	2		1	1		1		2		1	3	13
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	3	2	3		2	1	2	1			1	17
	百日咳	3	12	31	39	29	30	21	17	13	13	2	5	215
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>									1		1	1	3

表3 2025年 ウイルス検出状況

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
コクサッキーウイルスA群4型						6	19	8	5				38
エンテロウイルスA群71型											1		1
エコーウイルス3型								2			2		4
エコーウイルス7型						3	3	2	5				13
エコーウイルス9型						4	1		1	1			7
エコーウイルス11型	3												3
エコーウイルス18型						7	10	13	8				38
エコーウイルス (型不明)											1		1
ライノウイルス		2	8	36	41	36	32	16	34	20	15	11	251
パレコウイルス1型							3		5		1		9
パレコウイルス3型						3	4						7
パレコウイルス5型						6	19	8					33
A型インフルエンザウイルス (H1pdm09亜型)	17	1		1					2				21
A型インフルエンザウイルス (H3亜型)	2	4	12	7	2	1		4	11	19	60	43	165
A型インフルエンザウイルス (亜型不明)												1	1
B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)	3	3	13	11	5		1	1	1	2	3	1	44
B型インフルエンザウイルス (系統不明)											1		1
C型インフルエンザウイルス						4	3	3	1	2			13
パラインフルエンザウイルス1型			1					2	6	7	2	2	20
パラインフルエンザウイルス2型								1	4	6	5	1	17
パラインフルエンザウイルス3型				8	35	24	9			1			77
パラインフルエンザウイルス4型				1		9	5	5	1	1			22
RSウイルス (サブグループA)		5	3	5		3	8	5	3	6	2	1	41
RSウイルス (サブグループB)	8	1	5	5	1	4		1	10	7	3		45
ヒトメタニューモウイルス	2	3	4	11	2	2	2	1	1	3			31
新型コロナウイルス	11	12	5	3	10	12	25	18	26	10	3	3	138
ヒトコロナウイルス229E					1	1							2
ヒトコロナウイルスNL63			3	6	2		1			1			13
ヒトコロナウイルスOC43	3	4	3			1							11
ヒトコロナウイルスHKU1	1	1		2									4
麻疹ウイルス			3		6								9
ノロウイルスGII	1	2	2	4				1					10
サボウイルス					1	1	2						4
ロタウイルス		3	3	2	1		1						10
アデノウイルス1型	2			1		1	2		1	1			8
アデノウイルス2型						1	1		1				3
アデノウイルス4型							1						1
アデノウイルス5型						1						1	2
アデノウイルス6型						1							1
アデノウイルス14型					1								1
アデノウイルス41型					1						1	1	3
アデノウイルス89型					1	1							2
アデノウイルス108型	1	1		2	4	5	4						17
アデノウイルス不明						1							1
単純ヘルペスウイルス1型					1								1
A型肝炎ウイルス			1						1				2
ヒトボカウイルス				4	2	14	6						26
バルボウイルスB19				2	3	3	3	3	5	4	1	6	30
SFTSウイルス					1		1						2
エムボックスウイルス									1				1
水痘帯状疱疹ウイルス				1				1					2
陽性検体数	54	42	66	112	121	155	166	95	133	91	101	71	1207
検体数	59	37	57	115	129	142	171	112	144	113	116	82	1277
(うち複数検出された検体数)	3	5	8	18	23	27	23	8	18	13	7	3	156

表4 2025年 疾患別ウイルス検出件数

(集団嘔吐下痢症および、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症をのぞく)

診断名	検出ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
RSウイルス感染症	ライノウイルス			2	2	1	1	1		2				9	
	エコーウイルス7型								1					1	
	パレコウイルス1型							1						1	
	パラインフルエンザウイルス2型										1			1	
	パラインフルエンザウイルス3型					1		1						2	
	RSウイルス (サブグループA)		5	3	4			1	5	2	1	3	2		26
	RSウイルス (サブグループB)	5	1	4	2			1			3	2			18
	ヒトメタニューモウイルス		1	1	2						1				5
	ヒトコロナウイルスNL63			1											1
ヒトコロナウイルスOC43		1												1	
ヒトコロナウイルスHKU1		1												1	
咽頭結膜熱	ライノウイルス					1		1						2	
	エコーウイルス7型							1						1	
	エコーウイルス18型							1						1	
	パラインフルエンザウイルス3型					1								1	
	アデノウイルス1型	2					1			1				4	
	アデノウイルス2型							1						1	
	アデノウイルス108型	1	1					1						3	
	アデノウイルス (型不明)							1						1	
バルボウイルスB19					1								1		
感染性胃腸炎	ライノウイルス			1										1	
	ノロウイルスG11	1	4											5	
	A群ロタウイルス			6										6	
手足口病	コクサッキーウイルスA群4型						1							1	
	エコーウイルス18型						1	1	2					4	
	C型インフルエンザウイルス						1							1	
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA群4型						1	7	1	5				14	
	エコーウイルス7型							1						1	
	ライノウイルス							1		1				2	
	パレコウイルス5型							1						1	
	パラインフルエンザウイルス2型								1					1	
	パラインフルエンザウイルス3型							1						1	
	アデノウイルス108型							1						1	
ヒトボカウイルス							2						2		
突発性発疹	ライノウイルス					1	1	1						3	
	C型インフルエンザウイルス							1						1	
	パラインフルエンザウイルス3型						1							1	
	ヒトボカウイルス					1								1	
無菌性髄膜炎	エコーウイルス7型									2				2	
	エコーウイルス9型						3							3	
	エコーウイルス11型	3												3	
	エコーウイルス18型						3	4	12					19	
	パレコウイルス3型						3	3						6	
パレコウイルス5型						4	9	6					19		
麻疹疑い	ライノウイルス			1	1									2	
	A型インフルエンザウイルス (H3亜型)	1												1	
	パラインフルエンザウイルス1型			1										1	
	ヒトメタニューモウイルス			1										1	
	ヒトコロナウイルスNL63			1										1	
	麻疹ウイルス			3		6								9	
急性呼吸器感染症 (含む「上気道炎」)	コクサッキーウイルスA群4型						4	11	6	1				22	
	エンテロウイルスA群71型											1		1	
	エコーウイルス3型								2			1		3	
	エコーウイルス7型						2	2	1	3				8	
	エコーウイルス9型						1	1		1	1			4	
	エコーウイルス18型						2	4	1	5				12	
	ライノウイルス			1	29	35	33	24	13	27	17	12	10	201	
	パレコウイルス1型							1		3		1		5	
	パレコウイルス3型							1						1	
	パレコウイルス5型							2	6	1				9	
	A型インフルエンザウイルス (H1pdm09亜型)				1						1			2	
	A型インフルエンザウイルス (H3亜型)				5	1	1		4	4	12	35	26	88	
	B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)				6	2		1		1	1		1	12	
	B型インフルエンザウイルス (系統不明)											1		1	
	C型インフルエンザウイルス							3	2	3	1	2		11	
	パラインフルエンザウイルス1型									2	6	7	2	2	19
	パラインフルエンザウイルス2型									4	4	5	1	14	
	パラインフルエンザウイルス3型				7	33	23	6			1			70	
	パラインフルエンザウイルス4型				1		9	5	5	1	1			22	
	RSウイルス (サブグループA)				1		2	2	3	2	3		1	14	
	RSウイルス (サブグループB)	1		1	3	1	3		1	7	5	3		25	
	ヒトメタニューモウイルス	1	2	1	8		2	2	1		2			19	
	新型コロナウイルス		1		3	8	10	22	15	16	7	2	2	86	
	ヒトコロナウイルス229E							1						1	
	ヒトコロナウイルスNL63			1	6	2		1			1			11	
	ヒトコロナウイルスOC43	2	1	1				1						5	
	ヒトコロナウイルスHKU1				2									2	
	アデノウイルス1型				1				2			1		4	
	アデノウイルス2型							1			1			2	
	アデノウイルス4型								1					1	
	アデノウイルス5型							1					1	2	
	アデノウイルス6型							1						1	
アデノウイルス14型						1							1		
アデノウイルス89型						1	1						2		
アデノウイルス108型				2	3	4	3						12		
単純ヘルペスウイルス1型						1							1		
ヒトボカウイルス				4	1	13	4						22		
バルボウイルスB19				2	2	3	3	3	5	4	1	5	28		